

平成 29 年度「学校評価」まとめ

○学部職員

①全ての項目でプラス評価である。

②意見より

項目 4：時間も限られているし、週 1 だし、あたりなかつたりなのであまり必要性を感じない。  
(現状の方法だと)

項目 9：副担であり、保護者と関わる機会が少なかったため。

項目 12：性教育授業の取り組みなど全職員で取り組むことができている。学舎担当で内容をより確認できると良い。生徒や保護者への連絡も含めて、学部・舎の報・連・相を徹底する。

○寄宿舍職員

①全ての項目でプラス評価である。

②意見より

項目 15：施設面で補修が必要な箇所は今後も点検と整備が必要。

○保護者

①全ての項目でプラス評価である。

- ・学校行事や舎での生活を通し成長が見られる。楽しみながら生徒が参加している様子が見られる。
- ・個々の実態に応じた指導が行われている。

②意見より

項目 1：保護者への連絡に関して、学部と寄宿舍行き違いがある。(何度も同じ連絡がある等)

※次年度も学部と寄宿舍との連携を強化しながら対応して行く。

項目 2：避難訓練等学校での評価、反省はあると思いますが第三者、消防の方等の評価や話しがあるとさらに安全面について考えていくのかな。

※うるま市消防本部やうるま署と訓練計画を密にし、消防士や警察官の立ち会いのもとに訓練を実施し、アドバイスを頂きながら改善に努めている。

項目 11、12：就業体験の際の連絡や説明と確認をもっとして欲しい。

※特に 1 年の生徒・保護者への説明の徹底を更に進めて行く。

○「学校評価」からみられた課題

①対人関係・コミュニケーション指導 (職員が率先した敬語、TPO、言葉使いを含めて)

②挨拶の徹底

③職員同士、保護者への報・連・相

④進路に関する研究

⑤性教育に関する研究

⑥自己肯定感へつなげる指導の充実

⑦災害時対応に関する保護者への周知

⑧生活自立を踏まえた金銭管理の指導

⑨生徒指導に関しての保護者との連携